

ふくろう通信 一第4号一

2017. 6. 1 発行



編集 松本 佳世子
兵頭 舞美
広報委員会

RYLA 修了生のみなさん、いかがお過ごしですか。第39回のRYLA セミナーも終わりました。ライラリアンは2680地区だけでも一千名を超えています。

さて、今年の9月に学友会が発足して10年の節目を迎えるにあたって、記念式典と集いの会を開催することになりました。深川先生のご講演、学友会の歩み、記念事業、親睦会、RYLA 楽団の演奏など、みなさんに楽しんでいただけるような会にしたいとスタッフ一同、力をあわせて企画しております。

RYLA が創設されて来年で40年。久しぶりにお会いできる方もおられるでしょう。また、初めてお会いできる方もいらっしゃるでしょう。お互いにRYLA について語り合しましょう。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。



RYLA 学友会会長 倉本 勉

2016~2017 年度 RYLA学友会 会長方針

RYLAの本質と実践

- RYLAで学んだことを問い直す—
- RYLA修了生としての奉仕実践—

◇◇純ちゃんの部屋◇◇

湯川秀樹博士の「先を見る目」

昭和23年の或る日、湯川秀樹博士が評論家の小林秀雄さんと「人間の進歩」ということについて対談をされました。この時、湯川先生は、未だノーベル賞を受賞していません。京都に素晴らしい学者が居る、という評判があった程度の人でありました。一方、小林秀雄さんは評論の神様と謂われた人でありました。

小林さんが日本の行く末を心配して湯川先生に尋ねました。「日本は、どうなるのでしょうか」。すると湯川先生は、「そう心配することはないと思います。あと30年の歳月を借れば、日本は科学的先進国になるでしょう」と。

当時は終戦から僅か3年目でありました。我が国は、原爆や焼夷弾によって見渡す限りが廃墟になって、私達は、食べるものも、着るものも、住むところもなかった時代であります。そのような時代に、湯川博士は、既にこのような予言をしておられたのであります。そして、予言通りに、戦後30年にして我が国は世界第二の経済大国を築き上げて行ったのであります。私は、湯川博士の「先を見る目」の鋭さに驚かされたことが忘れられないのであります。

深川 純一



今井鎮雄先生からライラリアンへのメッセージ



〔RYLA の〕次のステップに何を要求したらよいであろうか。幾つかを挙げてみたいと思う。

第一、参加したリーダー達と、送り出したクラブの関係をより密にしたいということである。クラブが将来の夢を託して青少年奉仕のプログラムのために選んだリーダーであり、それを地区がRYLA を通して訓練したわけである。各クラブが地域における青少年奉仕の中に、この人的資源を十分活用してほしい。できれば年に一度程度、その後の地域における青少年活動のリポートを聞いたり、激励する機会を設けてもらえないだろうか。

第二、すでに300名以上のRYLA の修了生が地区内各地に点在しているわけである。彼等は私的には互いの友情と研修の交流のために、カウンセラーであったロータリアンを通して集まっているが、これを組織化していき、RYLA 修了生のアフターケアと同時に、この若い力を活用する方法があるのではないだろうか。ロータリーが青少年奉仕の中で特に R.A. (ROTARACT)、I.A. (INTARACT) を大切にするのは、これらの若者にロータリーの精神を持って地域の中で共働して社会奉仕に励んでもらいたいという意図があるからである。その意味で、R.A. や I.A. が年次大会を持っているように、RYLA の組織化も、また RYLA 修了生の組織化も検討課題である。

第三は、RYLA 修了生と国際奉仕の関係である。昨年度は数名の米山奨学生が部分的に参加していたが、世界的視野を持つ指導者の養成を考えるこのRYLA から、世界的な視野で奉仕をする若者を出したいと願うのは私一人であるまい。ことにアジアの中で共に生きる世界を創るためには、そこで生きている青少年同志の交流と交換が必要であろう。PHD の岩村博士が「世界理解と平和」というロータリーの不滅の理想を実現するために、近隣諸国の草の根の青年達と日本の青年達とを、生活の労働を通して触れ合わせることを始められた時に、RYLA の青少年達がそれに参加するなり、独自にプログラムを持つなりして、ロータリーを通しての国際奉仕を発展させてくれることを願いたいと思う。国際ロータリーでは ROVE (ROTARY OVERSEAS VOCATIONAL EXCHANGE) をはじめ、幾つかのプログラムを推薦しているが、我国ではまだこれらのプログラムはあまり開発されていない。やがてはRYLA の諸君がこれらを開拓してくれることが最も適当ではないかと考えている。

--第4回 RYLA セミナー報告書(1982年)より--

◆第39回RYLAセミナー◆

2017年5月18日(木)～21日(日) 余島野外活動センターにて、第39回RYLAセミナーが開催されました。

RYLAセミナーは、恵まれた自然の中で、テーマに基づく講義、キャビンタイム、思索の時間、バスセッション、フォーラムなどを通じて、学び語り合い、考えるセミナーです。今回参加した受講生から参加して感じたことなどをご報告します！



◆ 修了生 阪上 美咲 ◆

「創造＝信じ、育てていくこと」これが第39回RYLAセミナーに参加し、感じたことです。

私は、四日間のうちの大半を不安な気持ちで過ごしていたように思います。「班の皆とうまくやっていけるだろうか。」「迷惑を掛けないだろうか。」「どうして自分ではできないのだろう。」班に貢献したいと思っている一方で、不安は自分自身を萎縮させていきました。



それでも私の可能性を信じてくれる班員の存在や、それぞれが持ち場につき、力を合わせ始めたとき、私はやっと自分を信じ役割に気づくことができました。

また、前日夜には静まっていたCCC班でしたが、その後は全員が明るく真剣な表情で課題に取り組み、晴れ晴れとした気持ちでフォーラムを終えることができました。

私たちは未来を創造していく世代です。何事に対しても、自分の可能性、一人ひとりの可能性を信じ、創り育てていくことの大切さを学ばせていただきました。

本当にありがとうございました。

◆ 修了生 深澤 真 ◆

今回RYLAセミナーに参加するにあたり最初は不安もありましたが、4日間を終えてみると想像以上の素晴らしい経験の連続で本当に貴重な時間を過ごす事が出来ました。

ロータリー、RYLAとは何かという所からスタートしましたが、講義やバスセッション、フォーラムなどを通して『行動する事』の大切さを強く感じ、ロータリーの理念を身をもって体験することが出来ました。



今回リーダーシップについて深く学ぶ事が出来ましたが、そのリーダーシップを職場ではもちろんのこと外の世界でも発揮する必要があるのだと感じました。職場では組織の目的を達成するため、外では平和な社会の実現を目指すため行動する必要がある事を学びました。またその中で、常に奉仕の精神も持って行動する事の大切さも学びました。見返りを求めず奉仕(行動)していく事がいつか自分の力になるという事を学ぶ事が出来たので、その事を職場で、外の世界で意識して行動するよう心掛けたいと思います。



学友会活動



RYLA学友会は、RYLAセミナーを通して作られた受講者同士のつながりを継続してもらうため、また、今後の受講生をサポートするなど、RYLAを支援することを目的に活動しています。

春のお花見、夏のサマーホリデーといった親睦会をはじめ、学友会セミナーやロータリーファミリーである他団体との交流会など様々な活動を行っています。

みなさんの参加をお待ちしております～！

詳細は下記より↓チェック☆して下さいね！



♪今後の予定♪

- ◆ 6/10 (土) 第39回RYLA修了生歓迎同窓会
- ◆ 6/24 (土) 五学友合同総会
- ◆ 8/10 (木) 前島 国際青少年リーダー養成セミナー
- ◆ 9/3 (日) RYLA学友会創立10周年記念式典

ホームページ

<http://rylagakuyu.blogspot.jp/>



RYLA2680

